

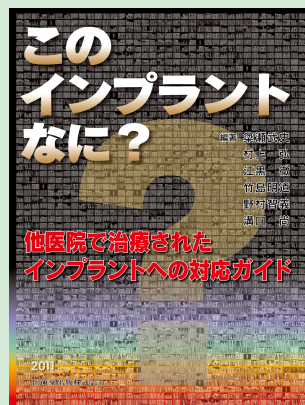
重原 聡●

「こんな本があったらいいのに！」と思っていた書籍がこのたび発刊された。

近年、歯科医療の欠損補綴治療における一つのオプションとしてインプラント治療は社会に認知され、一般開業医、大学病院においても広く行われるようになってきた。世界では 100 社以上、日本国内のメーカーもそれぞれインプラントシステムを発売している。このような状況の下、既に他院でインプラント治療を受けた患者が、何らかの理由で来院するケースが増加傾向にあるのも事実である。中には、十年以上経過したインプラントシステムの場合もある。多くは、近医によるメンテナンス希望にもかかわらず転勤等の理由で来院されるケースだが、トラブルが生じて来院されるケースも少なくない。主訴や口腔内状況、レントゲンなどから得られる情報によって、インプラントの部位やタイプは推測可能であるが、安易な対応は、かえって二次的なトラブルに見舞われるリスクがある。的確な判断、処置、対応を行うためには、確実にインプラントメーカーを把握し、システムや特徴を理解しておく事が必須であると考え。

本書には、インプラントシステムの鑑別における重要な事項が網羅されている。すべてのインプラントを見開きで紹介し、左頁には実際の形状とレントゲン透過像、アバットメントコネクションの拡大像、使用ドライバーが提示され、右頁には臨床のレントゲン像と、その特徴と類似したインプラントの鑑別方法におけるポイントが述べられている。拡大された画像によって特徴が容易に理解でき、臨床の流れに即した判断基準の留意点を押さえた内容となっている。また各メーカーの問い合わせ先が明記され、まさに臨床家の、臨床家による、臨床家のための至れり尽くせりの情報が盛り込まれている。

戦時中、軍艦に乗って双眼鏡で監視している人は敵戦艦を発見したとき、影絵で敵戦艦の判別、戦力を報告できるようにトレーニングされていたという。まさにインプラント臨床で、我々がレントゲン



このインプラントなに？
他医院で治療されたインプラントへの対応ガイド

築瀬武史・村上 弘・
江黒 徹・竹島明道・
野村智義・溝口 尚 編著
A4 判変型 244 頁 定価
10,500 円（本体 10,000 円
＋税 5%）
医歯薬出版株式会社刊

に現れた画像をみるときに必要なトレーニングと同じなのではないだろうか。歯科の臨床では、双眼鏡をレントゲンに置き換えて来院される患者の情報を読み取らなければならない。通常、最も多く臨床で見かける影絵の謎は、まさに「このインプラントなに？」である。そのときに提示されたレントゲン像が、その答えを導いてくれる。影絵での判別は大変重要である。

『このインプラントなに？』は“臨床に役立つインプラント図鑑 2011”と思えるほど、豊富な資料と臨床写真が提示されており、即、臨床に役立つ充実した内容になっている。臨床医が直面している問題点を痛感し、誰かがやらねばとの使命感から本書が生まれたことが伝わってくる。まさに熱意、努力、根気の賜物であり、改めて敬意を表したい。

これまで幾度となく、判別、対応に苦慮した経験がある。その度に様々な手段を用いて調べ、時間、費用を費やしてきたが、本書を手にしてからは、必携の書となり、臨床上の安心にも繋がっている。

的確な対処法、メンテナンス法が行えることは、患者にとっても福音であり、信頼関係の確立にも寄与し後に他の部位の治療にも繋がる。今後、本書によってさらに安全、確実な、患者のためのインプラント臨床が普及していくことであろう。インプラント臨床を行っている医院には必携の一冊である。

（しげはらさとし 〒259-0124 神奈川県中郡二宮町山西 1264-1 湘南デンタルケアインプラントクリニック Tel：0463-70-1200）